

## プロシーディング原稿作成規定（パネルディスカッション、各種セミナー）

### 1. 原稿の提出様式

特に指定はありません。入力した CD などに使用ソフト名を記入し、プリントしたものと一緒に同封して送付して下さい。図・表・写真はまとめて原稿の最後に付け、写真はプリントまたはデーターにして提出して下さい（CD などの返却はできません）。E-mail でも受付します。

### 2. 連絡先（原稿校正用）

原稿の校正は、E-mail もしくは FAX にて行います。

原稿中に校正用として、校正者の電話番号、FAX 番号、E-mail アドレスを必ず記入して下さい。

### 3. 字 数

刷り上がり 5 ページ以内とし、字数は 7,000 ～ 8,000 字前後、写真、図表、文献などは字数に含まれるものとします。この場合、写真、図表は各々 1 枚につき約 300 字程度と計算してください。演題名、演者名、共同研究者名、所属機関、住所は字数に含まれませんが、共同研究者が多いときは本文の字数が減ります。

### 4. 演者名および共同研究者名

演者名は最初に書き、そのあとに共同研究者名を続けて下さい。また、演者名、共同研究者名には、すべてローマ字で読みを付けて下さい。

例) Yoshihisa YAMANE, Kazuaki TAKASHIMA

また、各人の所属機関を表す目的でそれぞれの名前のおとに、1) 2) 3) の番号をつけ、改めて番号ごとに所属機関名、郵便番号、所在地の住所、連絡先を書き記して下さい。

例) <sup>1)</sup> (公財) 動物臨床医学研究所：〒 682-0025 鳥取県倉吉市八屋 214-10

TEL：0858-26-0851 FAX：0858-26-2158 E-mail：dorinken@apionet.or.jp

### 5. 原稿の記述形式

「動物臨床医学」の形式に準じていますが、原則として以下のように記述して下さい。

1) 演題名：発表内容を適切に表わす題とし、英題も記載して下さい。なお、「～について」、「～に関して」などは付けなくて下さい。

2) 本文中の表記は下記に従って下さい。

①血液検査項目名および単位：RBC( $\times 10^6/\mu\text{l}$ ), Hb(g/dl), Ht/PCV(%), MCV(fl), MCHC(%), MCH(pg), Ret(%), Plat( $\times 10^3/\mu\text{l}$ ), WBC( $\mu\text{l}$ ), Band-N( $/\mu\text{l}$ ), Seg-N( $/\mu\text{l}$ ), Lym( $\mu\text{l}$ ), Mon( $/\mu\text{l}$ ), Eos( $/\mu\text{l}$ ), Bas( $/\mu\text{l}$ ), TP(g/dl), Alb(g/dl), Glob(g/dl), ALT(U/l), AST(U/l), ALP(U/l), GGT(U/l), TBil(mg/dl), TCho(mg/dl), TG(mg/dl), Glu(mg/dl), Amy(U/l), Lip(U/l), BUN(mg/dl), Cre(mg/dl), Ca(mg/dl), P(mg/dl), Na(mmol/l), K(mmol/l), Cl(mmol/l), Fe( $\mu\text{g/dl}$ ), TIBC( $\mu\text{g/dl}$ ), UIBC( $\mu\text{g/dl}$ ), LDH(U/l), CPK/CK(U/l), Cortisol( $\mu\text{g/dl}$ ),  $\text{T}_4$ ( $\mu\text{g/dl}$ ),  $\text{fT}_4$ (pmol/l or ng/dl), CRP(mg/dl)

プロシーディング原稿作成規定（パネルディスカッション、各種セミナー）

②度量行衡の単位および略語：％，m，cm，mm， $\mu$ m，nm，pm， $\text{cm}^3$ ，l，ml， $\mu$ l，kg，g，mg， $\mu$ g，ng，hr，min，sec，msec，rpm，Hz，cpm，dpm，ppm， $^{\circ}$ C，cal，Kcal，lux，LD  
病名や手術名など略語を使用する際は、日本語を記入しその後略語のみとして下さい。

例) 心室中隔欠損症 (VSD)

③人および一般的な動物（犬、猫など）の表記：漢字で記入してください。

④図（写真）表：各図表には必ず番号および題名をつけて下さい。また、本文中にもカッコ書きで挿入して下さい（例：図1）。写真も入れられますので、jpg画像などでお送り下さい。

⑤参考文献：本文中の引用箇所参考文献番号を記入してください（例：[1]）。また、本文に文献番号を記入しない場合には、各参考文献には番号ではなく「・」を入れて下さい。文献の記載方法は下記に従ってください。

◆雑誌の場合：著者名、題名、雑誌名、巻、ページ（発行年）

◆単行本の場合：著者名、書名、編集者名、版、ページ、発行所、発行地（発行年）

1) Fingland RB, Bonagura JD, Myer CW : Pulmonic stenosis in the dog : 29 cases (1975-1984). *J Am Vet Med Assoc*, 189, 218-226 (1986)

2) Charies C, Sharron LM (小野憲一郎 訳) : カルシウム代謝と副甲状腺疾患. *Vet Clin North Am* (日本語版), 7, 77-104, 学窓社, 東京 (1975)

・清水美希, 田中綾, 星克一郎, 他 : 僧帽弁閉鎖不全症に併発した左心房破裂に外科的修復術を行った犬の1例. *動物臨床医学*, 12, 105-108 (2003)

・高島一昭, 曾田藍子, 田中綾, 山根義久 : 生体弁を用いた犬の僧帽弁全置換術に対する検討. 第30回動物臨床医学会年次大会プロシーディング, No.2, 93-94 (2009)

## 6. 著作権

本誌に掲載された原稿の著作権は、全て「動物臨床医学会」に帰属します。